

分野名	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅰ
単位数	1	授業時間数	45
開講年次	1 年次	開講期間	通年

担当教員	専任教員* *実務経験のある教員
目的	健康維持増進又は療養、治療の目的で、通院又は入院生活を送る地域に生活する人々の健康上のニーズを知り、健康状態の各期に必要な健康管理行動や医療・看護について基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 地域に生活する人々の健康上のニーズの充足と病院機能との関連について知る。 2. 患者と良好な人間関係を築くために、コミュニケーション技術を活用することがわかる。 3. 患者のニーズを知り必要な援助方法がわかる。 4. 安全・安楽に考慮した援助を実施できる。 5. 実施した援助について振り返ることができる。 6. 看護学生として適切な態度で実習することができる。
行動目標	1. 病院の機能を知る。 2. 地域に生活する人々の健康上のニーズを知る。 3. 病院における看護部門の位置づけと役割について知る。 4. コミュニケーション技術を活用し、患者と良好な人間関係を築く方法を知る。 5. 治療に伴い変化した患者の生活環境と日常生活上のニーズを知り、必要な援助を考える。 6. 安全・安楽に考慮した援助を実施できる。 7. 実施した援助について振り返ることができる。 8. 看護学生として適切な態度で実習することができる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	2 年次	開講期間	前期

担当教員	専任教員* *実務経験のある教員
目的	ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程のプロセスを体験して、看護を实践する基礎的な知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 看護に必要な情報を収集する。 2. 情報を分析・解釈する。 3. 看護問題を明確化する。 4. 看護問題の解決に向けて、看護計画を立案する。 5. 看護計画に基づいて援助を実施する。 6. 実施した援助の結果を評価する。 7. 医療チームの一員として責任ある態度で実習することができる。
行動目標	1. 収集した情報を整理・分類できる。 2. 自己の課題を明確にできる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	地域で暮らす人々に生活上及び健康上のニーズを把握し、その解決に向けて地域のフォーマル・インフォーマルな資源と連携しながら必要な看護を実践するための知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 実習施設の所在する地域の特性をとらえ、そこに暮らす人々の健康への影響について考察し記述することができる。 2. 対象とその家族の生活上・健康上のニーズを抽出することができる。 3. 在宅療養者とその家族の QOL の維持・工場のめざした看護を実施することができる。 4. 地域包括システムにおける看護職の役割について考察し記述することができる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての基本的な姿勢を身につけ表現することができる。
行動目標	1) 地域包括支援センター 1. 地域の特性をとらえ、そこに暮らす人々の健康への影響について考察することができる。 2. 地域におけるセンターの役割と機能を述べることができる。 3. 地域住民の生活上・健康上のニーズを解決するための支援について述べることができる。 4. 対象の自立に向けた地域連携と社会資源の活用について述べることができる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての基本的な姿勢を身につけ表現することができる。 2) 医療機関の外来／在宅療養支援部門 1. 医療機関の外来／在宅療養支援部門の役割と機能について述べるができる。 2. 外来通院／入院・退院する患者とその家族の生活・健康上のニーズを抽出することができる。 3. 対象の自立に向けた院内外連携と社会資源の活用について述べるができる。 4. 専門職業人をめざす学習者としての基本的な姿勢を身につけ表現することができる。 3) 訪問看護ステーション 1. 訪問看護ステーションの役割と機能について述べるができる。 2. 在宅療養者とその家族の生活上・健康上のニーズを抽出することができる。 3. 在宅療養者とその家族の QOL の維持・向上をめざした看護を実施することができる。 4. 対象の自立に向けた多職種の連携・協働と社会資源の活用について述べることができる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての基本的な姿勢を身につけ表現することができる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の 3 分の 2 以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	成人看護学実習Ⅰ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。 2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。 3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。 4. 多職種との連携の必要性を理解する。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。
行動目標	A 生命の危機状態にある患者の看護 1. 救急医療の体制と機能について理解する。 2. 生命の危機状態にある患者・家族の特徴を理解する。 3. 生命の危機状態にある患者・家族の援助の実際がわかる。 B 手術を必要とする患者の看護 1. 最良の状態で手術を受けるための援助を理解する。 2. 手術侵襲による生理的機能変化を観察する。 3. 安全で安楽に回復するための援助を実施する。 4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の 3 分の 2 以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	成人看護学実習Ⅱ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。 2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。 3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。 4. 多職種との連携の必要性を理解する。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。
行動目標	【生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする患者の看護】 1. 患者のセルフケア能力に応じた日常生活の援助を実施する。 2. 患者のセルフケア行動に向けて学習支援を実施する。 3. 患者及び家族の心理状態に応じた援助を理解する。 4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	成人看護学実習Ⅲ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	成人期にある患者の健康のレベルに応じた看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 成人期の発達段階や発達課題をふまえ、身体的・心理的・社会的側面を統合して理解する。 2. 成人期にある患者の健康問題を判断し、個別性に応じた看護を実施する。 3. 患者および家族の心理状態に配慮し、尊重した態度でかかわる。 4. 多職種との連携の必要性を理解する。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。
行動目標	【人生の最期のときを過ごしている患者の看護】 1. 患者の身体的苦痛や全身状態の悪化に伴う援助を実施する。 2. 患者と家族の心理状態に応じた援助を理解する。 3. 患者の生活の質を維持・向上するための日常生活の援助を実施する。 4. 患者と家族の気持ちを尊重した態度でかかわる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	老年看護学実習Ⅰ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	老年期の華麗に伴う変化や健康問題に由来する生活機能障害のある高齢者を受け持ち、地域で生活する高齢者の生活状況を理解し、高齢者の QOL の向上を目指す老年看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 高齢者の加齢に伴う変化、健康状態を理解できる。 2. 高齢者の特徴、健康状態や生活機能をふまえ、日常生活の援助を実施できる。 3. 高齢者が、地域においてその人らしい生活を送るための援助について理解できる。 4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における多職種との連携の必要性を理解できる。 5. 高齢者の意思を尊重できる。 6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。
行動目標	【地域（施設）で生活する高齢者の看護】 1. 対象とコミュニケーションをとり、人間関係を築くことができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活の支援を実施できる。 3. 施設で生活する対象の楽しみや生きがいへの支援を実施できる。 4. 施設における看護の機能と役割を述べることができる。 5. 対象の意志を尊重した態度でかかわることができる。 6. 施設の現状から、老年看護のあり方を考察できる。 7. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現できる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の 3 分の 2 以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	老年看護学実習Ⅱ
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	地域・在宅看護論の関連科目と位置付ける。地域で生活する高齢者の、加齢に伴う変化や健康障害によって医療施設に入院となる背景を知るとともに、高齢者が地域においてその人らしい生活を継続するために必要な保健医療福祉サービスの活用の実際を学ぶ。サービス活用においては、本人を中心とした多職種との連携・協働に注目し、また、住まい、医療、介護、生活支援、介護予防が、高齢者に包括的に提供される地域包括ケアシステムの理解を深める内容とする。
実習目標	1. 高齢者の加齢に伴う変化、健康状態を理解できる。 2. 高齢者の特徴、健康状態や生活機能をふまえ、日常生活の援助を実施できる。 3. 高齢者が、地域においてその人らしい生活を送るための援助について理解できる。 4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における多職種との連携の必要性を理解できる。 5. 高齢者の意思を尊重できる。 6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を身につける。
行動目標	1. 対象や家族の思いに関心を示し、人間関係を築くことができる。 2. 対象の状態に応じた日常生活拡大への援助を実施できる。 3. 高齢者に起こりやすい症状に対する予防・援助を実施できる。 4. 入院治療を受け、地域に戻る対象の支援について理解できる。 5. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現できる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	小児看護学実習
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	小児各期にある対象とその家族を理解し、成長発達・健康段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
実習目標	1. 小児各期の成長発達・健康段階が理解できる。 2. 小児各期の成長発達段階を考慮したかかわりができる。 3. 入院治療の必要な子どもと家族の個別性を考慮した援助が実施できる。 4. 安全管理の重要性を理解し、事故防止に努めることができる。 5. 子どもの権利をふまえた誠実な態度でかかわることができる。
行動目標	1) 地域で生活する子どもの理解 1. 乳幼児・学童の成長発達を観察できる。 2. 受け持ちクラスの日常生活援助および保育・学習活動の実際を観察できる。 3. 子どもの安全を守るために必要な環境を述べることができる。 4. 保育園・小学校における健康の保持・増進のための援助の実際を述べることができる。 2) 入院治療を必要とする子どもと家族の看護 1. 患児と家族の健康上の問題を明確にできる。 2. 患児の個別性を考慮した日常生活の援助を考えることができる。 3. 患児と家族の状態や症状を踏まえた援助ができる。 4. 発達段階に応じて起こりうる事故を予測し、安全を守る援助ができる。 5. 子どもの権利をふまえた援助の必要性が表現できる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	母性看護学実習
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 妊産褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に合わせた基本的援助が理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期における母子相互作用について理解を深め、円滑な母子関係の形成へ向けてかかわることができる。 3. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉と諸機関との連携について理解を深めることができる。 4. 専門職業人をめざす学習者として、ふさわしい態度をとることができる。
行動目標	1) 妊婦看護 1. 妊娠に伴って生じる身体的変化（胎児の発育状態含む）、心理・社会的変化について情報収集できる。 2. 妊婦の健康診査が理解できる。 3. 受け持ち妊婦の妊娠経過及び妊婦の健康生活について解釈・分析できる。 4. 妊娠各期に応じた保健指導の内容と方法が理解できる。 2) 産婦看護 1. 入院時の産婦の観察と援助が理解できる。 2. 分娩 1 期・2 期の進行状態の観察と援助が理解できる。 3. 分娩 3 期の観察と援助が理解できる。 4. 分娩後 4 期の観察と援助が理解できる。 3) 褥婦看護 1. 褥婦の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 産褥経過が情報収集・解釈・分析できる。 3. 復古状態の観察と復古促進の援助ができる。 4. 褥婦の育児行動を観察し、母乳栄養・母子関係確立への援助ができる。 5. 褥婦に必要な保健指導を理解し、支援の関わりができる。 6. 母児の生活を継続して援助するために、地域社会や地域関連機関との連携の必要性を理解できる。 4) 新生児看護 1. 新生児の健康状態に影響を及ぼす因子について理解できる。 2. 出生直後の新生児の観察と援助ができる。 3. 新生児の日齢に応じた生理的变化を観察し、健康状態について解釈・分析できる。 4. 母体外環境への適応を促進するための援助ができる。 5) 母性看護学実習における学習者の態度 1. 母性看護学領域における自己の課題を常に明らかにし、主体的に学習に取り組むことができる。 2. 看護学生としてその場にふさわしい態度で、実習に臨むことができる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の 3 分の 2 以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	精神看護学実習
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	通年

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	精神に障害をもつ対象とその家族に看護を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
実習目標	1. 精神に障害をもつ対象への理解を表現する。 2. 対象を多角的にアセスメントし、必要な援助を実施する。 3. 患者－看護師関係の発展過程を理解し、尊重した態度で関わる。 4. 精神医療における看護の役割・機能を説明する。 5. 自己の内面の変化に気づき自己洞察する。 6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。
行動目標	1. 精神に障害をもつ対象への理解を表現する。 2. 対象を多角的にアセスメントし、必要な援助を実施する。 3. 患者－看護師関係の発展過程を理解し、尊重した態度で関わる。 4. 精神医療における看護の役割・機能を説明する。 5. 自己の内面の変化に気づき自己洞察する。 6. 専門職業人をめざす学習者としての態度を表現する。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の 3 分の 2 以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。

分野名	専門分野	科目名	統合実習
単位数	2	授業時間数	90
開講年次	3 年次	開講期間	後期

担当教員名	専任教員* *実務経験のある教員
目的	既習の知識・技術・態度を統合して多職種と連携・協働したチーム医療の中で看護マネジメントでき、臨床判断に基づいた看護実践できる能力を養う。
実習目標	1. 複数の患者を受け持ち、根拠に基づき安全に看護を提供するためのマネジメントを実施できる。 2. 夜勤看護師の役割や夜間における患者の状況を理解できる。 3. チーム医療における看護管理者・看護師の役割と機能の理解を深めることができる。 4. 多職種と連携・協働したチーム医療の実際を知り、看護師の役割の理解を深めることができる。 5. 看護師に求められる態度と自己の課題を明確にできる。
行動目標	1. 複数の受け持ち患者の優先順位、時間管理を考慮した援助ができる。 2. 受け持ち患者の全体を把握し、受け持ち看護師の立案した看護計画に沿って援助を実施できる。 3. 夜勤実習の体験を通し、夜勤看護師の役割や患者の状況を知ることができる。 4. 看護部の役割と機能、病棟管理の実際について知ることができる。 5. 看護チームの一員としての役割と連携の実際について理解できる。 6. 多職種との連携の実際を知り、チーム医療における看護師の役割と機能について理解できる。
評価	1. 評価の方法 評価は、実習内容および実習態度、実習記録の提出等により総合的に評価する。 2. 評価基準 1) 出席すべき時間の3分の2以上をもって、評価の対象とする。 2) 実習科目ごとの評価表に則って優・良・可・不可とし、可以上を合格とする。
履修にあたっての留意点	詳細は実習要項を確認すること。